

浜松市における
ブラジル人市民の生活・就労実態調査

平成15年3月

浜松市企画部国際課

目次

1 はじめに

- (1) 浜松市におけるブラジル人市民 1
- (2) 調査方法・目的 1

2 浜松市におけるブラジル人市民の現状

(1) 基本属性 2

- ① 国籍
- ② 性別
- ③ 年齢
- ④ 世代
- ⑤ 母国の家族構成
- ⑥ 日本における家族構成
- ⑦ 母国における出身地域
- ⑧ 来日年
- ⑨ 来日時の居住地
- ⑩ 来日理由
- ⑪ 通産滞日期間
- ⑫ 来浜年
- ⑬ 来浜理由
- ⑭ 通産滞浜期間
- ⑮ 通産来日回数

(2) 就 業 7

- ① 来日時の職業
- ② 来浜時の職業
- ③ 現在の職業
- ④ 来日時の収入
- ⑤ 来浜時の収入
- ⑥ 現在の収入
- ⑦ 収入の変化
- ⑧ 雇用形態
- ⑨ 勤務時間
- ⑩ 週休
- ⑪ 残業時間
- ⑫ 求職方法

- ⑬ 希望雇用形態
- ⑭ 現在の仕事の満足度
- ⑮ 転職回数
- ⑯ 主な転職理由
- ⑰ 仕事に関するトラブル
- ⑱ 失業期間
- ⑲ 失業理由
- ⑳ 今後の就業について

(3) 居 住 13

- ① 居住形態
- ② 居住に関するトラブル

(4) 保険・年金 14

- ① 健康保険への加入状況
- ② 年金加入状況
- ③ 雇用保険加入状況
- ④ 保険等未加入の理由

(5) 行政サービス 16

- ① 期待する行政サービス

(6) 日本語能力 16

- ① 日本語能力

(7) 生活・意識 17

- ① 主な情報源
- ② 現在の問題
- ③ 外国人ホームレスに対する意識

(8) 子どもの教育 18

- ① 子どもの教育

(9) 将来の見通し 19

- ① 将来の見通し

3 おわりに

浜松市におけるブラジル人市民の状況について

～ 生活・就学実態結果から ～

1 はじめに

(1) 浜松市におけるブラジル人市民

1990年の「出入国管理及び難民認定法（以下「入管法」）」の改正以降、浜松市では、外国人労働者が急激に増加をみせた。平成15年2月末現在、浜松市の総人口598,768人に対して外国人登録者の占める割合は3.66%の21,927人となっている。このうちブラジル出身者は13,174人、ペルー出身者は1,448人を占めるなど、浜松市は、南米出身者が多く居住する地域となっており、とりわけブラジル国籍の外国人登録者数に関しては、市町村レベルで全国一となっている。

この浜松市におけるブラジル出身者流入の背景要因としては、製造業比率や有効求人倍率の高さに伴う就業機会の多さがあげられる。そのほかにも、冬季の温暖な気候のほか、最近の行政や団体、NPO、あるいはブラジル出身者によるエスニック・ビジネスなどによるエスニック・インフラの充実、情報の集積もブラジル出身者を吸引する大きな要因としてあげることができる。

国際労働力移動において、外国人労働者は受入国における定住化の中、おおむね次のような移民連鎖（Migration Chain）システムをたどる。移民連鎖システムとは受入国において、短期の移動者（出稼ぎ者：sojourner）が長期の移住者（settler または移民 immigrant）に、やがて定住する市民（citizen）または住人（permanent resident）に変化していく過程である。日本におけるブラジル出身者は、上記の標準的な移民連鎖システムと比較し、短期間で移住主体の世代や属性が変化することから、「凝縮された移住サイクル」とも称される。

このようなブラジル出身者の定住化は、浜松市においてもかなり深化しており、全外国人登録者数に占める16歳未満のブラジル出身登録者の割合が10.9%（1992）から20.1%（2001）になるなど、従来の単身出稼ぎ形態から家族滞在への急速な移行がみられる。また、最近では永住ビザの申請者数も急激な増加を見せている。

(2) 調査方法・目的

バブル崩壊後、外国人労働者は「帰国者」「定住者」に二分化しているといわれているが、不況下でもブラジル出身者の滞在者数は漸増し、また、居住の長期化も進んでいる。この滞在長期化の原因としては、不況下の残業時間減少に伴う収入の減少や、ブラジル本国での経済・治安の悪化などがあげられる。

このようなブラジル人出身者の滞在長期化の中、生活者としての側面が大きくなるにつれてその質的な変化もかなり進んでいる。上述した日本への定住化志向からも見られるように、移住者集団がやがて定住あるいは永住する市民に変遷していく可能性も十分にある。このことから、エスニシティの問題は今後も続き、さまざまな分野における共生社会へ向けての施策の必要性は高まることが予測される。

今回の調査は、浜松市に居住するブラジル出身者を中心とした南米出身者を対象に、不況下における彼らの生活や意識、就業や経済状況等実態を把握し、今後の外国人市民のための施策等の充実を図るための基礎資料とする目的で行ったものである。

調査方法としては、以下のとおりとする。

- 対象：浜松市内に在住する17歳以上のブラジル人、ペルー人、その他南米出身者

- 方法：調査票はポルトガル語で作成。平成14年11月～平成15年1月にかけて配布回収。調査票の配布回収数550件に対し、有効回収数は253件で、有効回収率は46.0%となった。
- 調査内容：浜松市が行った「外国人の生活意識実態調査」と比較できるよう、質問項目の調整を図った。調査の項目は以下のとおりである。
 - ・ 基本属性 (15項目)
 - ・ 就業 (20項目)
 - ・ 居住 (2項目)
 - ・ 保険・年金 (4項目)
 - ・ 行政サービス (1項目)
 - ・ 日本語能力 (1項目)
 - ・ 生活・意識 (4項目)
 - ・ 子どもの教育 (1項目)
 - ・ 将来の見通し (1項目)

2 調査結果

(1) 基本属性

世代に関しては、日系1世の占める割合が、1996年調査時の12.6%と比較すると1.6%になるなどかなりの減少をみせる。一方、非日系者の割合は、10.1%から19.6%へと増加した。日本における家族構成は、前回に引き続き「夫婦と子ども」の形態が最も多く、全体の60.9%を占める。母国における出身地域は、66.6%がサン・パウロとなっている。

来日時期は、入管法改正以降の「1990年～1991年」が最も多く26.3%、来日時の居住地としては、静岡県（浜松市を含む）、次いで愛知県、滋賀県の順に多い。来日理由は、「母国の経済・治安の悪さ」が39.4%、次いで「貯蓄目的」が24.9%となっている。通算滞日期間は、「10年以上」が41.3%を占めており、1996年、2000年調査と比較して、かなりの長期滞在傾向にあることがみとめられる。

来浜時期としては、「1996年から1997年」、「2000年から2001年」が最も多く、ともに18.6%を占め、次いで入管法改正直後の「1990年から1991年」となっている。これは、不況下においてもなお就業機会が比較的多いという浜松市の産業の性質や、外国人住民の増加に伴い、様々なエスニック・インフラが整備されたことなどの背景要因による求心力が、浜松市への流入を促した結果ともいえる。おもな来浜理由としては、「家族の居住」や「仕事がある」があげられる。通算浜松市滞在期間は、「7年以上」が2000年調査時の28.1%から増加をみせ、今回は42.9%となるなど、浜松市においても、滞在長期化の傾向はみとめられる。通算来日回数は、初めてが前回の52.9%から42.7%と減少をみせ、逆に4回目以上が、前回の2.8%から5.7%へと増加した。

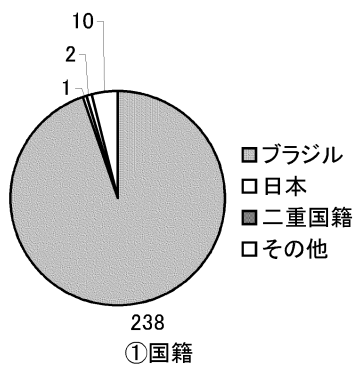
(1) 基本属性

① 国籍

設問「国籍を教えてください」

①ブラジル	238 (94.8%)
②日本	1 (0.4%)
③二重国籍	2 (0.8%)
④その他	10 (4.0%)

(N=251)

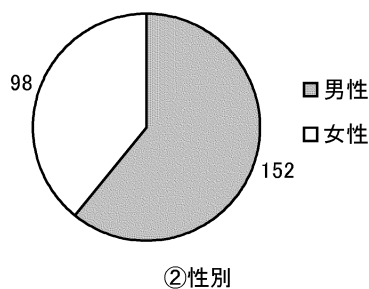


② 性別

設問「性別を教えてください」

①男性	152 (60.8%)
②女性	98 (39.2%)

(N=250)

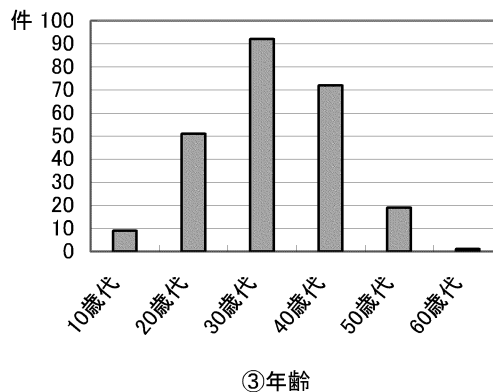


③ 年齢

設問「年齢を教えてください」

①10歳代	9 (3.7%)
②20歳代	51 (20.9%)
③30歳代	92 (37.7%)
④40歳代	72 (29.5%)
⑤50歳代	19 (7.8%)
⑥60歳代	1 (0.4%)

(N=244)

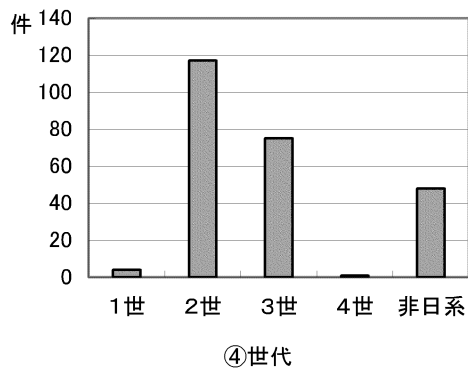


④ 世代

設問「日系人の方、あなたの世代を教えてください」

①1世	4 (1.6%)
②2世	117 (47.8%)
③3世	75 (30.6%)
④4世	1 (0.4%)
⑤非日系	48 (19.6%)

(N=245)

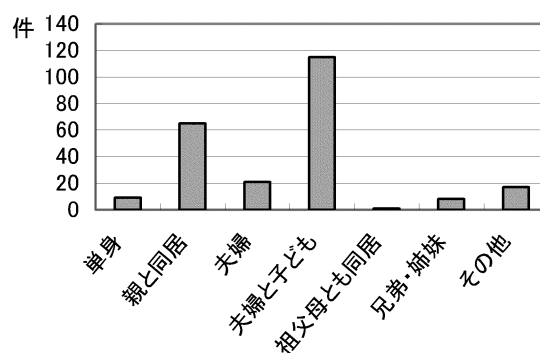


⑤ 母国の家族構成

設問「母国における家族構成を教えてください」

①単身	9 (3.8%)
②親と同居	65 (27.5%)
③夫婦	21 (8.9%)
④夫婦と子ども	115 (48.7%)
⑤祖父母とも同居	1 (0.4%)
⑥兄弟・姉妹	8 (3.4%)
⑦その他	17 (7.2%)

(N=236)



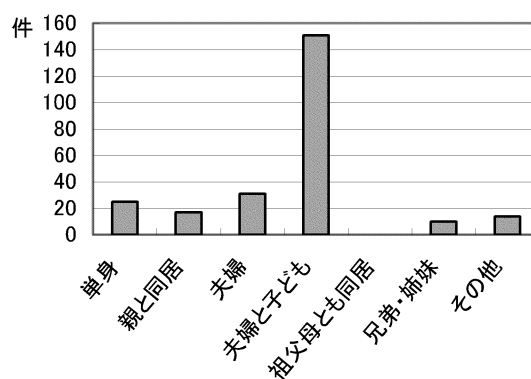
⑤母国における家族構成

⑥ 日本における家族構成

設問「日本における家族構成を教えてください」

①単身	25 (10.1%)
②親と同居	17 (6.9%)
③夫婦	31 (12.5%)
④夫婦と子ども	151 (60.9%)
⑤兄弟・姉妹	10 (4.0%)
⑥その他	14 (5.6%)

(N=248)



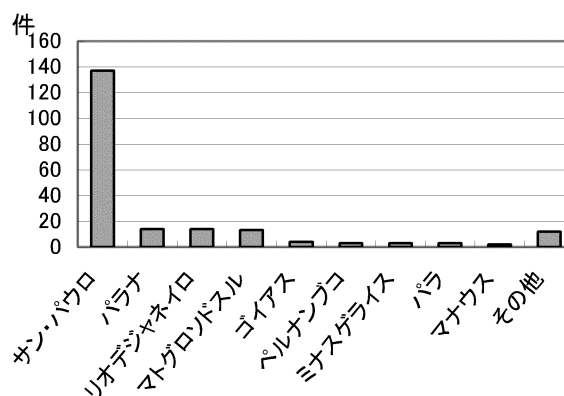
⑥日本における家族構成

⑦ 母国における出身地域

設問「母国における出身地域を教えてください」

①サン・パウロ	137 (66.8%)
②パラナ	14 (6.8%)
③リオ・デ・ジャネイロ	14 (6.8%)
④マト・グロソ・ド・スル	13 (6.3%)
⑤ゴイアス	4 (2.0%)
⑥ペルナンブコ	3 (1.5%)
⑦ミナス・ゲライス	3 (1.5%)
⑧パラ	3 (1.5%)
⑨マナウス	2 (1.0%)
⑩その他	12 (5.9%)

(N=205)



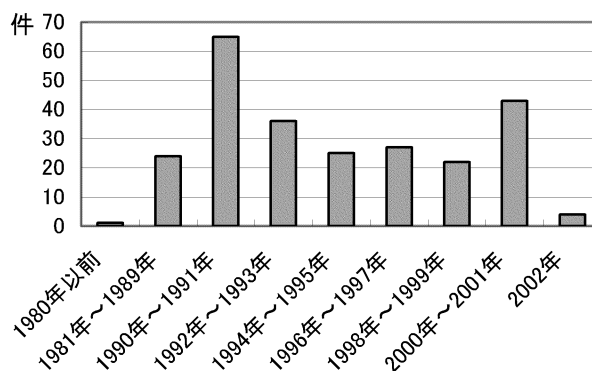
⑦母国における出身地域

⑧ 来日年

設問「来日した年はいつですか」

①1980年以前	1	(0.4%)
②1981～1989年	24	(9.7%)
③1990～1991年	65	(26.3%)
④1992～1993年	36	(14.6%)
⑤1994～1995年	25	(10.1%)
⑥1996～1997年	27	(10.9%)
⑦1998～1999年	22	(8.9%)
⑧2000～2001年	43	(17.4%)
⑨2002年	4	(1.6%)

(N=247)



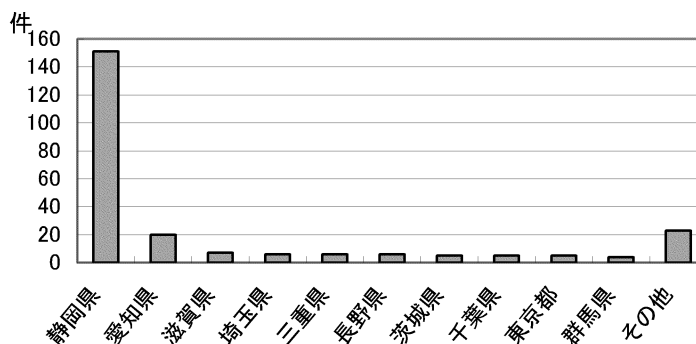
⑧来日年

⑨ 来日時の居住地

設問「来日時の居住都道府県を教えてください」

①静岡県	151	(63.4%)
②愛知県	8	(4.4%)
③滋賀県	7	(2.9%)
④埼玉県	6	(2.5%)
⑤三重県	6	(2.5%)
⑥長野県	6	(2.5%)
⑦茨城県	5	(2.1%)
⑧千葉県	5	(2.1%)
⑨東京都	5	(2.1%)
⑩群馬県	4	(1.7%)
⑪その他	23	(9.7%)

(N=238)



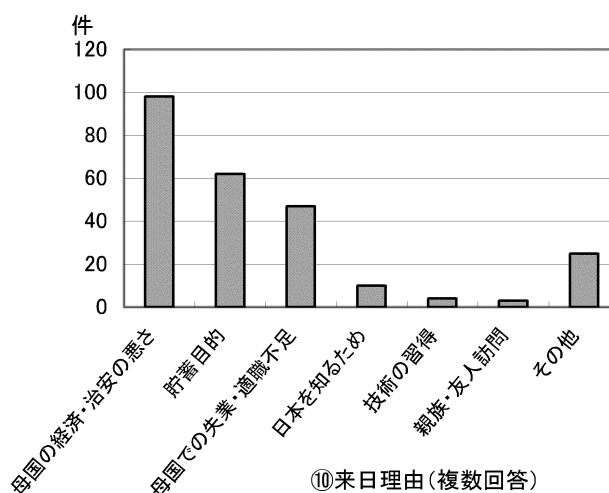
⑨来日時の居住都道府県

⑩ 来日理由

設問「来日した理由を教えてください」

①母国の経済・治安の悪さ	98	(39.4%)
②貯蓄目的	62	(24.9%)
③母国での失業・適職不足	47	(18.9%)
④日本を知るため	10	(4.0%)
⑤技術の習得	4	(1.6%)
⑥親族・友人訪問	3	(1.2%)
⑦その他	25	(10.0%)

(N=249)



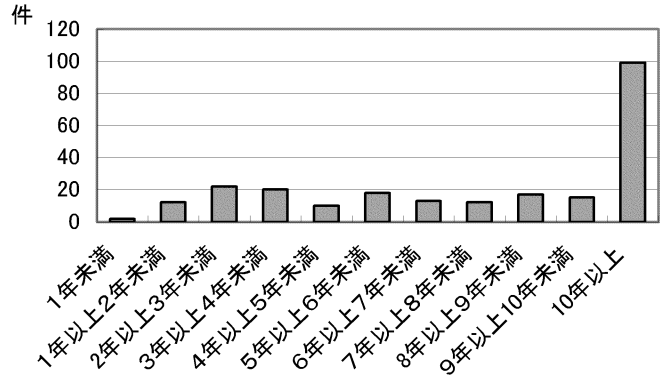
⑩来日理由(複数回答)

⑪ 通算滞日期间

設問「日本にはどのくらいの期間居住していますか」

① 1年未満	2 (0.8%)
② 1年以上2年未満	12 (5.0%)
③ 2年以上3年未満	22 (9.2%)
④ 3年以上4年未満	20 (8.3%)
⑤ 4年以上5年未満	10 (4.2%)
⑥ 5年以上6年未満	18 (7.5%)
⑦ 6年以上7年未満	13 (5.4%)
⑧ 7年以上8年未満	12 (5.0%)
⑨ 8年以上9年未満	17 (7.1%)
⑩ 9年以上10年未満	15 (6.3%)
⑪ 10年以上	99 (41.3%)

(N=240)



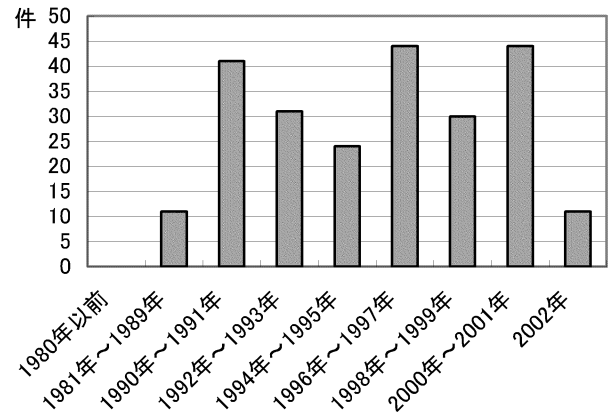
⑪ 通算滞日数別件数

⑫ 来浜年

設問「浜松市に来た年はいつですか」

① 1981～1989年	11 (4.7%)
② 1990～1991年	41 (17.4%)
③ 1992～1993年	31 (13.1%)
④ 1994～1995年	24 (10.2%)
⑤ 1996～1997年	44 (18.6%)
⑥ 1998～1999年	30 (12.7%)
⑦ 2000～2001年	44 (18.6%)
⑧ 2002年	11 (4.7%)

(N=236)



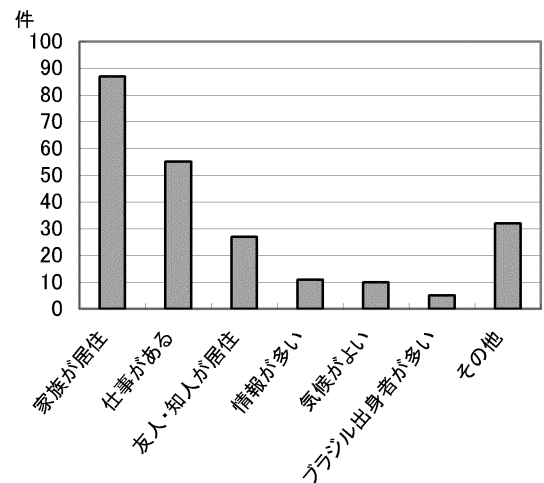
⑫ 来浜年別件数

⑬ 来浜理由

設問「浜松市に来た理由を教えてください」

① 家族が居住	87 (38.3%)
② 仕事があるから	55 (24.2%)
③ 友人・知人が居住	27 (11.9%)
④ 情報が多いから	11 (4.8%)
⑤ 気候がよいから	10 (4.4%)
⑥ ブラジル出身者が多い	5 (2.2%)
⑦ その他	32 (14.1%)

(N=227)



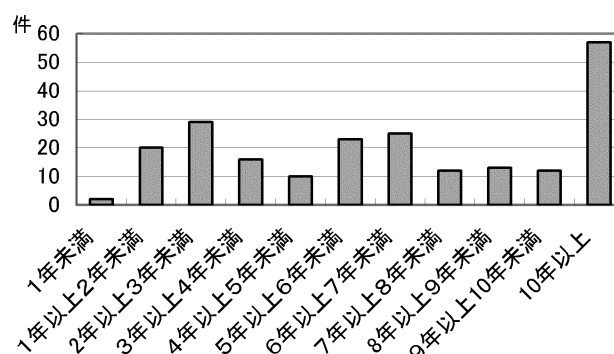
⑬ 来浜理由別件数

⑭ 通算滞浜期間

設問「浜松市にはどのくらいの期間居住していますか」

① 1年未満	2 (0.9%)
② 1年以上2年未満	20 (9.1%)
③ 2年以上3年未満	29 (13.2%)
④ 3年以上4年未満	16 (7.3%)
⑤ 4年以上5年未満	10 (4.6%)
⑥ 5年以上6年未満	23 (10.5%)
⑦ 6年以上7年未満	25 (11.4%)
⑧ 7年以上8年未満	12 (5.5%)
⑨ 8年以上9年未満	13 (5.9%)
⑩ 9年以上10年未満	12 (5.5%)
⑪ 10年以上	57 (26.0%)

(N=219)



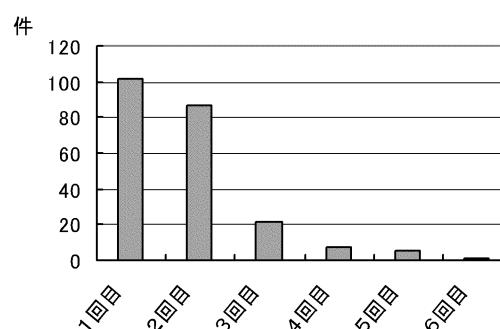
⑭通算滞浜期間

⑮ 通算来日回数

設問「来日した通算回数を教えてください」

① 初めて	102 (45.7%)
② 2回目	87 (39.0%)
③ 3回目	21 (9.4%)
④ 4回目	7 (3.1%)
⑤ 5回目	5 (2.2%)
⑥ 6回目	1 (0.4%)

(N=223)



⑮通算来日回数

(2) 就 業

就業する職業に関しては、来日時、来浜時、現在ともに「自動車関連製造業」が最も多く、50%～65%を占める。収入状況を見ると、来日時、来浜時、現在ともに「10万円～20万円」が最も多く、次いで「20万円～30万円」、「30万円～40万円」の順になっている。

来日後の収入の変化については、「やや減少」が28.9%を占め、次いで「変わらない」の27.2%、「とても減少」が21.5%の順となっており、近年の不況による残業時間減少の影響が、収入の変化にひびいていることがみとめられる。

雇用形態に関しては、「人材派遣業者」を通じての形態が76.7%と大半を占め、「工場との直接契約」は6.1%とかなり低い。しかし、希望する雇用形態としては、「どちらでもよい」が44.7%となっており、直接雇用・間接雇用いずれかへの大きな希望は、特にはみられない。一日の勤務時間は、8時間～9時間が最も多く51.7%、次いで10時間～11時間の18.7%となっており、週休は、「2日」が62.4%、1日が27.1%となっている。一ヶ月あたりの残業時間は「20時間以内」、「21時間以上40時間以内」がともに27.0%と最も多い。求職方法としては、「日本にある人材派遣会社」が最も多く52.2%を占める。また、「友人・知人の紹介」も、35.3%とかなりの割合を占めている。現在の仕事における満足度に関しては、「普通」が45.8%、「やや満足している」が、29.0%となっており、仕事への満足度は比較的高い

といえる。

通算転職回数に関しては、2000年調査と同様「3回～4回」が最も多い。また、2000年調査時には13.4%であった「5回以上」の転職者は、今回では20.8%と増加をみせており、転職回数の多さがうかがえる。おもな転職理由としては、「より高賃金を求めて」が2000年調査同様最も多い。一方、2000年調査時は7.6%であった「厳しい労働条件」による退職が、今回では23.1%と増加をみせており、一段と厳しくなった就労状況を反映したものとなっている。仕事に関するトラブルは、「低賃金」、「残業の減少」、「上司・同僚との不和」などがあげられ、今後の就業の方向性については、「ブラジルへ帰国」が61.9%、「日本で求職」が19.0%、「しばらくこのまま」が17.5%の順となっている。

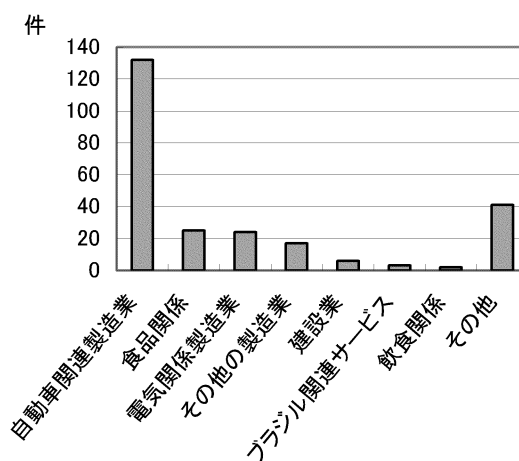
近年の不況下、外国人労働者の中には、失業者もみられるようになってきている。今回の調査でも、7件の失業者のサンプルを含む結果となった。失業期間は、「2年～3年」が3件、「4年以上」が2件、「1年未満」及び「3年～4年」がそれぞれ1件となっており、その理由としては、「自己都合」、「雇用条件の不一致」、「病気・けが」などがあげられる。

① 来日時の職業

設問「来日時の職業を教えてください」

①自動車関連の製造業	132 (52.8%)
②冷凍食品・弁当等食品関係	25 (10.0%)
③電気関係製造業	24 (9.6%)
④その他の製造業	17 (6.8%)
⑤建設業	6 (2.4%)
⑥ブラジル関連サービス業	3 (1.2%)
⑦レストラン等飲食関係	2 (0.8%)
⑧その他	41 (16.4%)

(N=250)



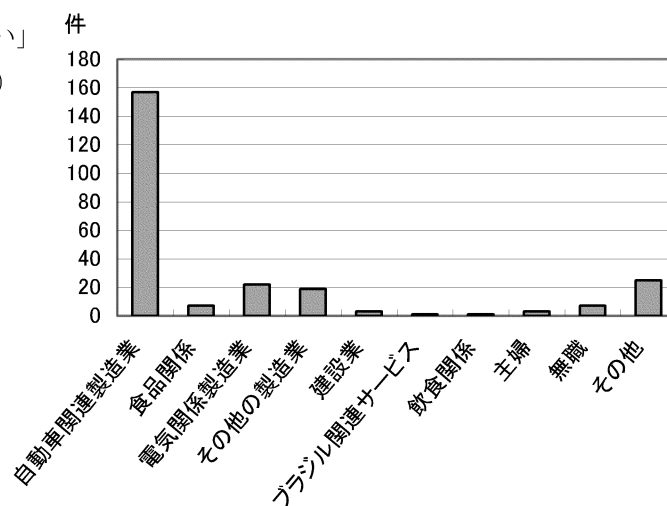
①来日時の職業

② 来浜時の職業

設問「浜松市に来たときの職業を教えてください」

①自動車関連の製造業	157 (64.1%)
②冷凍食品・弁当等食品関係	7 (2.9%)
③電気関係製造業	22 (9.0%)
④その他の製造業	19 (7.8%)
⑤建設業	3 (1.2%)
⑥ブラジル関連サービス業	1 (0.4%)
⑦レストラン等飲食関係	1 (0.4%)
⑧主婦	3 (1.2%)
⑨無職	7 (2.9%)
⑩その他	25 (10.2%)

(N=245)



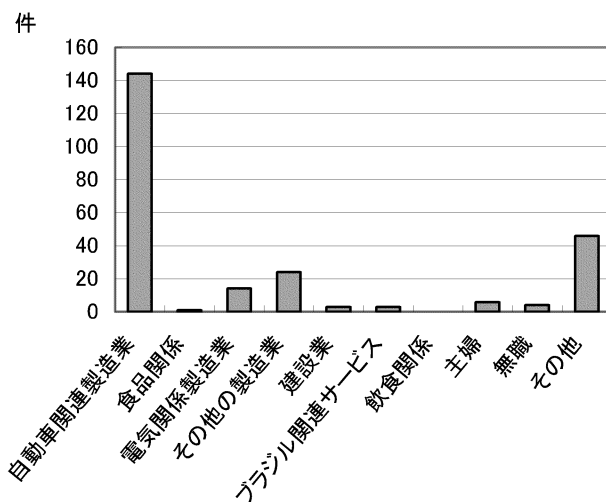
②来浜時の職業

③ 現在の職業

設問「現在の職業を教えてください」

①自動車関連の製造業	144 (58.8%)
②冷凍食品・弁当等食品関係	1 (0.4%)
③電気関係製造業	14 (5.7%)
④その他の製造業	24 (9.8%)
⑤建設業	3 (1.2%)
⑥ブラジル関連サービス業	3 (1.2%)
⑦主婦	6 (2.4%)
⑧無職	4 (1.6%)
⑨その他	46 (18.8%)

(N=245)



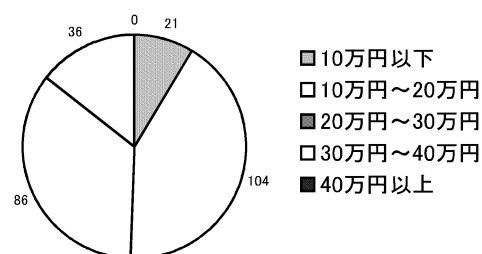
③現在の職業

④ 来日時の収入

設問「来日時の収入を教えてください」

①10万円以下	21 (8.5%)
②10万円～20万円	104 (42.1%)
③20万円～30万円	86 (34.8%)
④30万円～40万円	36 (14.6%)

(N=247)



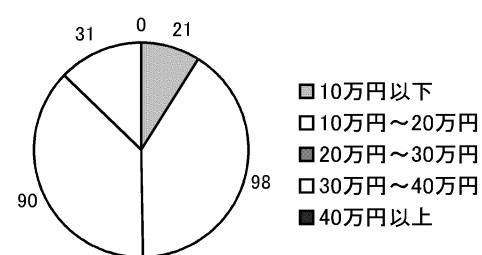
④来日時の収入

⑤ 来浜時の収入

設問「浜松市に来たときの収入を教えてください」

①10万円以下	21 (8.8%)
②10万円～20万円	98 (40.8%)
③20万円～30万円	90 (37.5%)
④30万円～40万円	31 (12.9%)

(N=240)



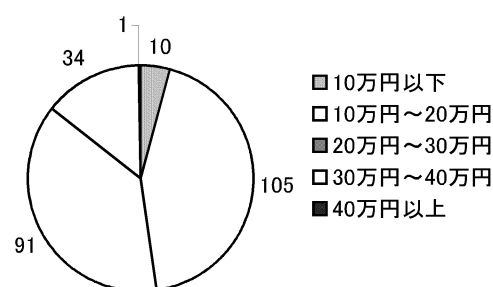
⑤来浜時の収入

⑥ 現在の収入

設問「現在の収入を教えてください」

①10万円以下	10 (4.1%)
②10万円～20万円	105 (43.6%)
③20万円～30万円	91 (37.8%)
④30万円～40万円	34 (14.1%)
⑤40万円以上	1 (0.4%)

(N=241)



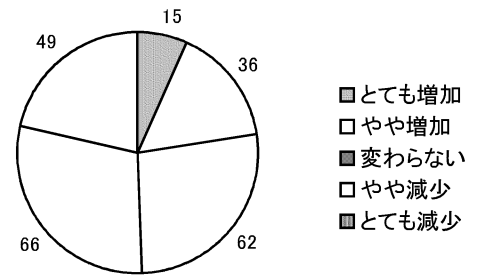
⑥現在の収入

⑦ 収入の変化

設問「来日後の収入の変化を教えてください」

①とても増加	15 (6.6%)
②やや増加	36 (15.8%)
③変わらない	62 (27.2%)
④やや減少	66 (28.9%)
⑤とても減少	49 (21.5%)

(N=228)



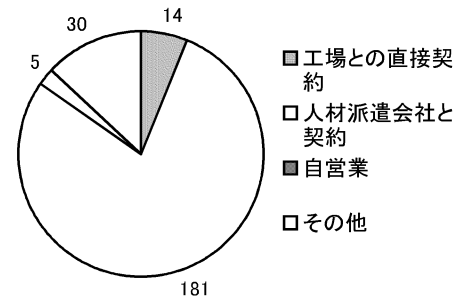
⑦収入の変化

⑧ 雇用形態

設問「雇用形態を教えてください」

①工場との直接契約	14 (6.1%)
②人材派遣会社と契約	181 (78.7%)
③自営業	5 (2.2%)
④その他	30 (13.0%)

(N=230)



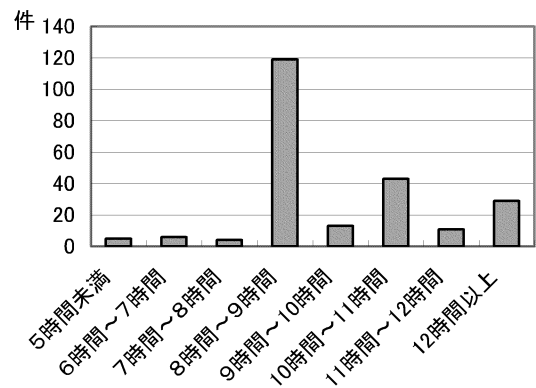
⑧雇用形態

⑨ 勤務時間

設問「一日の勤務時間を教えてください」

①5時間未満	5 (2.2%)
②6時間～7時間	6 (2.6%)
③7時間～8時間	4 (1.7%)
④8時間～9時間	119 (51.7%)
⑤9時間～10時間	13 (5.7%)
⑥10時間～11時間	43 (18.7%)
⑦11時間～12時間	11 (4.8%)
⑧12時間以上	29 (12.6%)

(N=230)

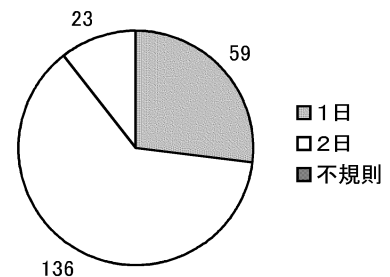


⑩ 週休

設問「週休はどのようになっていますか」

①1日	59 (27.1%)
②2日	136 (62.4%)
③不規則	23 (10.6%)

(N=218)



⑩週休

(3) 居住

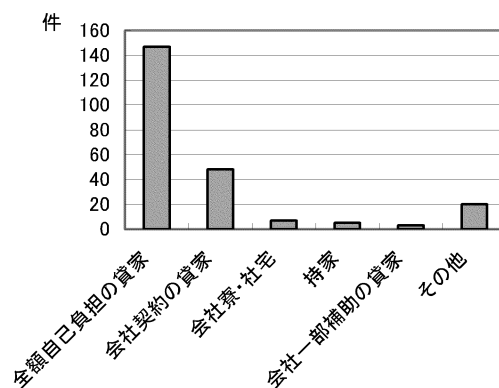
居住形態に関しては、1996年調査では、14.1%、2000年調査では59.3%であった「全額自己負担の貸家」が最も多く、63.9%を占めた。これに対し「会社契約の貸家」は1996年調査の49.0%から、2000年調査では27.9%へと減少し、さらに今回20.9%と減少をみせる。同様に「会社寮・社宅」も1996年調査時には27.7%であったものが、2000年には7.8%に減少、今回はさらに3.0%へと減少をみせた。これは、浜松市における外国人労働者の居住の大きな特質である、分散型居住の背景要因となっている。一方「持家」は、1996年の1.5%、2000年の1.0%から、今回は2.2%と増加した。居住に関するトラブルは、2000年調査時には「斡旋や入居の拒絶」が最も多く26.8%であったのに対し、今回は「礼金・敷金等習慣の違い」が最も多く37.5%となっている。

① 居住形態

設問「居住形態について教えてください」

①全額自己負担の貸家	147 (63.9%)
②会社契約の貸家	48 (20.9%)
③会社寮・社宅	7 (3.0%)
④持家	5 (2.2%)
⑤会社一部家賃補助の貸家	3 (1.3%)
⑥その他	20 (8.7%)

(N=230)



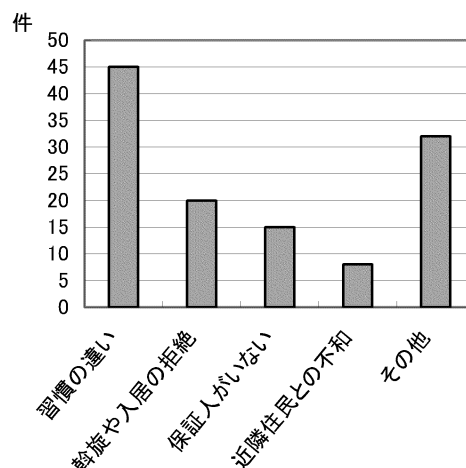
①居住形態

② 居住に関するトラブル

設問「居住に関する問題について教えてください」

①礼金・敷金等習慣の違い	45 (37.5%)
②斡旋や入居の拒絶	20 (16.7%)
③保証人がいない	15 (12.5%)
④近隣の住民との不和	8 (6.7%)
⑤その他	32 (26.7%)

(N=120)



②居住に関するトラブル

(4) 保険・年金

社会保険への加入は、年金との同時加入が必要であり、加入状況はあまり良いとはいえない。健康保険への加入の経年変化をみると、未加入割合が、1996年では34.2%であったのに対し、2000年では52.0%へと上昇した。しかし、今回の調査では47.6%と多少減少をみせる。加入保険の種類をみると、国民保険が最も多く、次いで、社会保険、旅行傷害保険となっている。

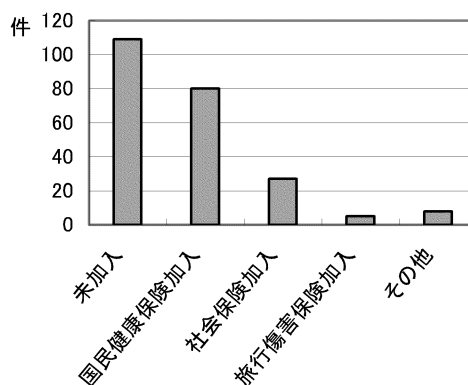
一方、年金に関しては、加入率が12.2%、雇用保険に関しても、加入率は12.5%であり、いずれもかなり低いものとなっている。保険未加入のおもな要因としては、「金銭的負担」が最も多く30.5%を占める。なお2000年の調査でもっとも大きな未加入要因となった「事業所で加入してくれない」に関しては、42.5%から29.8%になるなど減少をみせた。

① 健康保険加入状況

設問「健康保険への加入状況を教えてください」

①未加入	109 (47.6%)
②国民健康保険加入	80 (34.9%)
③社会保険加入	27 (11.8%)
④旅行傷害保険加入	5 (2.2%)
⑤その他	8 (3.5%)

(N=229)



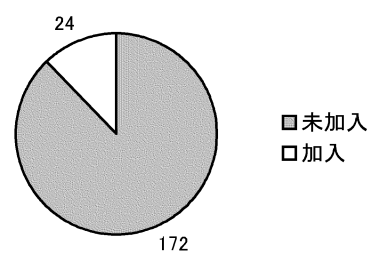
①健康保険加入状態

② 年金加入状況

設問「年金への加入状況を教えてください」

①未加入	172 (87.8%)
②加入	24 (12.2%)

(N=196)



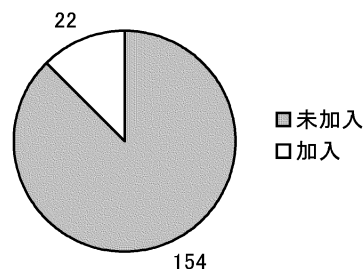
②年金加入状況

③ 雇用保険加入状況

設問「雇用保険への加入状況を教えてください」

①未加入	154 (87.5%)
②加入	22 (12.5%)

(N=176)



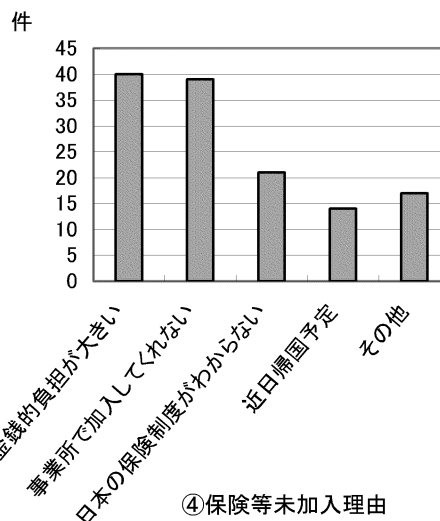
③雇用保険加入状況

④ 保険等未加入の理由

設問「保険等に未加入の理由を教えてください」

①金銭的負担が大きい	40 (30.5%)
②事業所で加入してくれない	39 (29.8%)
③日本の保険制度がわからない	21 (16.0%)
④近日帰国予定	14 (10.7%)
⑤その他	17 (13.0%)

(N=131)



④保険等未加入理由

(5) 行政サービス

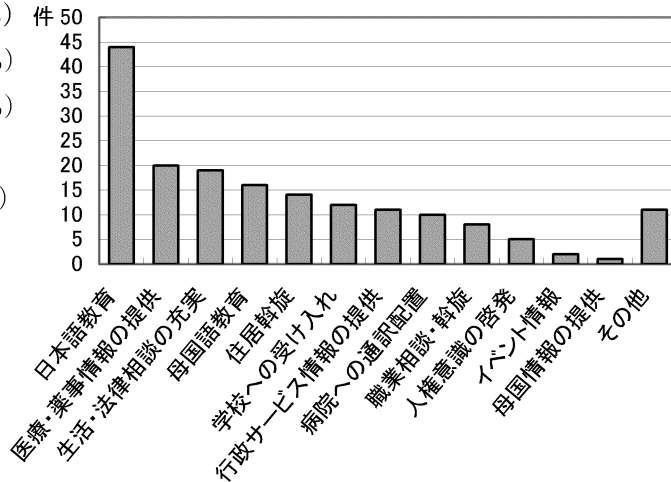
期待する行政サービスは、「日本語教育」が最も多く 25.4%を占める。1996 年調査では 17.6%と最も割合の高かった「母国語医療・薬事情報の提供」は、2000 年調査では 12.7%、今回は 11.6%と減少傾向にある。また、母国語生活・法律相談の充実に関しても、1996 年の 15.3%、2000 年 11.0%と減少をみせる。これらは、外国人の増加に伴う、行政や国際交流協会、NPO、市民ボランティア団体などによる、エスニック・インフラの充実に伴うサービスの向上によるものが大きい。

① 期待する行政サービス

設問「期待する行政サービスについて教えてください」

①日本語教育	44 (25.4%)
②母国語医療・薬事情報の提供	20 (11.6%)
③母国語生活・法律相談の充実	19 (11.0%)
④国語教育	16 (9.2%)
⑤住居斡旋	14 (8.1%)
⑥子どもの学校への受け入れ	12 (6.9%)
⑦母国語行政サービス情報の提供	11 (6.4%)
⑧病院への通訳配置	10 (5.8%)
⑨職業相談・斡旋	8 (4.6%)
⑩人権意識の啓発	5 (2.9%)
⑪文化・スポーツ等イベント情報	2 (1.2%)
⑫母国情報の提供	1 (0.6%)
⑬その他	11 (6.4%)

(N=173)



①期待する行政サービス(複数回答)

(6) 日本語能力

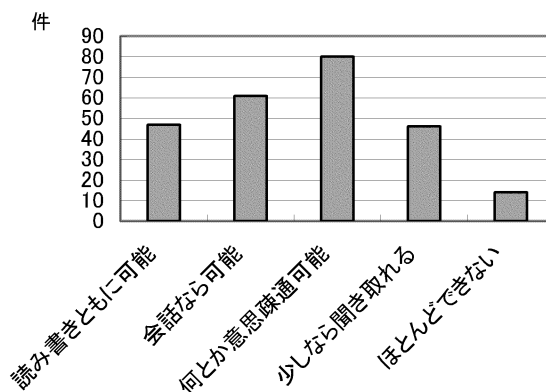
日本語能力に関しては、1996 年調査では 9.6%と最も低かった「読み書きともに可」が増加をみせ、2000 年では 13.5%、今回は 19.0%となった。また、「会話なら可能」も 1996 年には 10.1%であったものが、2000 年には 16.3%、今回は 24.6%となるなど増加をみせる。一方、「ほとんどできない」についても、1996 年の 15.4%から 2000 年は 13.9%、今回は 5.6%となるなど減少傾向にあり、滞在長期化に伴う日本語能力の向上がみとめられる。

① 日本語能力

設問「日本語能力を教えてください」

①読み書きともに可能	47 (19.0%)
②会話なら可能	61 (24.6%)
③何とか意思疎通が可能	80 (32.3%)
④少しなら聞き取ることが可能	46 (18.5%)
⑤ほとんどできない	14 (5.6%)

(N=248)



①日本語能力

(7) 生活・意識

主な情報源は、「日本にて発行されるポルトガル語新聞」が1996年、2000年、今回ともに最も多い。次いで、「ポルトガル語テレビ・ラジオ」の19.9%、「友人・親戚から」の7.2%となっている。現在抱える問題については、「ホームシック」が1996年と今回の調査において最も大きなものとなっている。また、「子どもの将来・教育」に関しても、2000年と今回の調査において、比較的大きな問題となっている。

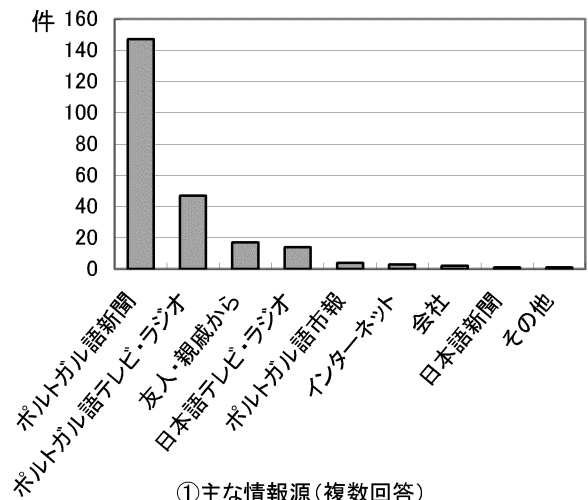
外国人ホームレスに関する認識をみると、「知っている」が31.5%と半数以下になっており、ホームレスに関する認識度は比較的低いことがうかがえる。また、外国人ホームレスに関する意識としては、「働いて普通の生活をすべきだ」が最も多く、41.3%を占める。次いで「本国に帰ってもらうべき」の24.8%となっている。一方「自立に向けた公的支援」の必要性をあげるものも、23.9%とかなり多い。

① 主な情報源

設問「主な情報源は何ですか」

①ポルトガル語新聞	147 (62.3%)
②ポルトガル語テレビ・ラジオ	47 (19.9%)
③友人・親戚から	17 (7.2%)
④日本語テレビ・ラジオ	14 (5.9%)
⑤ポルトガル語市報	4 (1.7%)
⑥インターネット	3 (1.3%)
⑦会社	2 (0.8%)
⑧日本語新聞	1 (0.4%)
⑨その他	1 (0.4%)

(N=236)

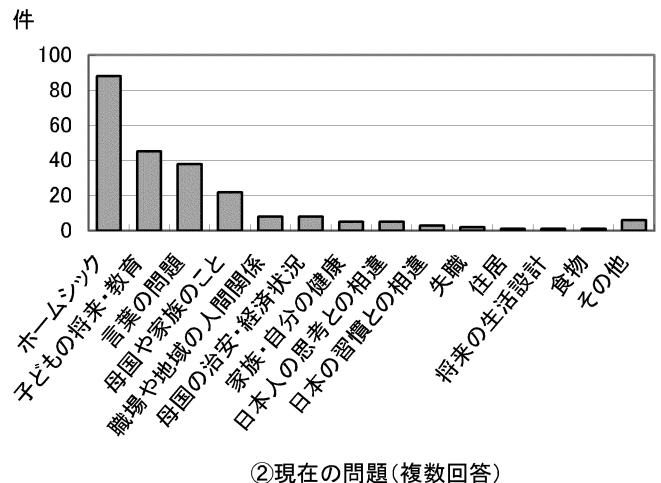


② 現在の問題

設問「現在抱えている問題について教えてください」

①ホームシック	88 (37.8%)
②子どもの将来・教育	45 (19.3%)
③言葉の問題	38 (16.3%)
④母国や家族のこと	22 (9.4%)
⑤職場や地域の人間関係	8 (3.4%)
⑥母国の治安・経済状況	8 (3.4%)
⑦家族・自分の健康	5 (2.1%)
⑧日本人の思考との相違	5 (2.1%)
⑨日本の習慣との相違	3 (1.3%)
⑩失職	2 (0.9%)
⑪住居	1 (0.4%)
⑫将来の生活設計	1 (0.4%)
⑬食物	1 (0.4%)
⑭その他	6 (2.6%)

(N=233)

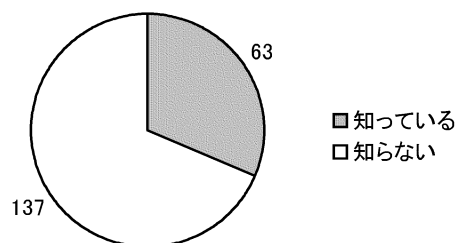


③ 外国人ホームレスに対する認識度

設問「外国人ホームレスの存在を知っていますか」

- ①知っている 63 (31.5%)
- ②知らない 137 (68.5%)

(N=200)



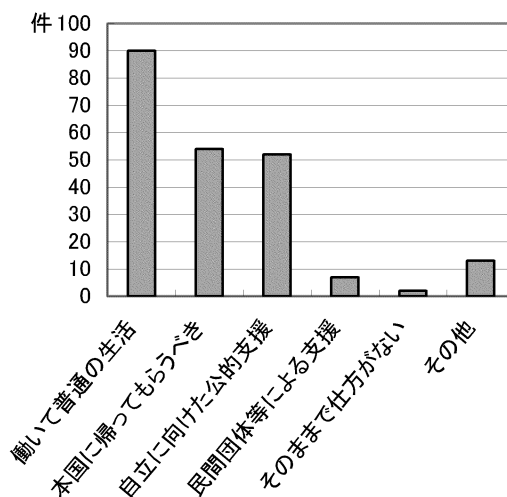
③外国人ホームレスに対する認識度

④ 外国人ホームレスに対する意識

設問「外国人ホームレスに対するあなたの考えを教えてください」

- ①働いて普通の生活をすべきだ 90 (41.3%)
- ②本国に帰ってもらうべき 54 (24.8%)
- ③自立に向けた公的支援が必要 52 (23.9%)
- ④民間団体等による支援が必要 7 (3.2%)
- ⑤そのままでは仕方がない 2 (0.9%)
- ⑥その他 13 (6.0%)

(N=218)



④外国人ホームレスに対する意識

(8) 子どもの教育

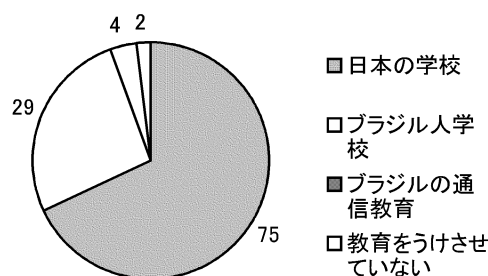
子どもの教育については、2000年調査に引き続き、「日本の学校への通学」が、68.2%と最も多くを占める。一方、近年の、ブラジル出身者による教育サービスの充実に伴い、「ブラジル人学校」への通学も、2000年調査時の3.9%から26.4%と大きく増加をみせた。なお、「教育を受けさせていない」に関しては、2000年調査と同じ1.8%となっている。

① 子どもの教育

設問「子どもがいる方へ、子どもの教育機関について教えてください」

- ①日本の学校 75 (68.2%)
- ②ブラジル人学校 29 (26.4%)
- ③ブラジルの通信教育 4 (3.6%)
- ④教育を受けさせていない 2 (1.8%)

(N=110)



①子どもの教育

(9) 将来の見通し

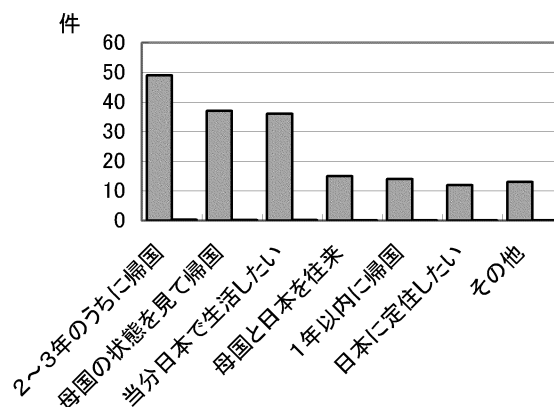
将来の見通しに関しては、2000年調査時に40.5%と最も多くを占めていた「当分日本で生活したい」が、今回の調査では20.5%となるなど減少をみせる。これに対し、2000年調査で15.9%であった「2～3年のうちに帰国」が、今回は27.8%と増加している。同じく「母国の状態をみて帰国」に関して、2000年の15.9%から今回は21.0%と増加傾向にあり、帰国への意識の高まりもうかがえる。

① 将来の見通し

設問「将来の計画について教えてください」

① 2～3年のうちに帰国	49 (27.8%)
② 母国の状態をみて帰国	37 (21.0%)
③ 当分日本で生活したい	36 (20.5%)
④ 母国と日本を行き来して生活	15 (8.5%)
⑤ 1年以内に帰国	14 (8.0%)
⑥ 日本に定住したい	12 (6.8%)
⑦ その他	13 (7.4%)

(N=176)



① 将来の見通し

3 おわりに

今回の調査は、浜松市に居住する南米日系人の就労状況に焦点を絞った調査であったため、サンプルに関して、年齢層などに多少のばらつきがある。このため、今回の調査結果を単純に1996年、2000年調査と比較することは適当とはいえない。しかし、いくつかの傾向は明らかになっており、以下、従来調査と比較した今回の調査の特徴をあげる。

- ① 滞在の一層の長期化…リピーター的移動も増加
- ② 日本語能力の向上…「読み書きともに可」は、1996年の9.6%から19.0%へ
- ③ 日本語教育…行政サービスへの期待
- ④ 居住形態の変化…「社宅・寮」から「全額自己負担の貸家」へ

また、今回の調査で明らかになった、就労状況、経済状況の現状及び傾向としては、以下のことがあげられる。

- ① 経済状況…残業時間の減少等ともなう収入の減少
- ② 就労形態…間接雇用が78.7%。しかし実際希望する就労形態としては、「どちらでもよい」がほとんど
- ③ 勤務時間…勤務時間は「8～9時間」が51.7%、週休は2日が62.4%
- ④ 転職の増加…転職回数は「3～4回」が43.3%

なお、最近の不況の影響を受け、今回の調査サンプルの中には、数件の失業者もみられる。失業期間は2～3年が最も多く、おもな失業理由としては「自己都合」「雇用条件の不一致」「けが」などがあげられる。一方ホームレスに対する認識という点では、「知っている」と答えたものが31.5%しかなく、認識度の低さがうかがえる。ホームレスに対する意見としては「働いて普通の生活をすべきである」「本国

に帰ってもらわなければならない」が多く、一方で「自立に向けた公的支援の必要性」をあげる者もかなりみられる。

浜松市内に居住する南米日系人及びその家族は、滞在の長期化にともない、その特質を変化させる。また、今回の就労、経済に関する現状を見るかぎり、彼らを取り巻く周囲の状況も変化をみせる。そのため、今後も、南米日系人とその家族の状況を的確に把握し、また、それを取り巻く周囲の状況の変化をふまえつつ、彼らのニーズにあった諸施策を講じていくことが必要である。

《集 計 表》

集計表には比較考察できるよう、過去に行った調査（1996 年度・2000 年度）の結果を抜粋した。斜線は、過去の調査では質問項目を設けなかったものである。調査の概要は以下のとおりである。

『日系人の生活実態・意識調査 96』

- 調査対象 浜松及び近隣地域のブラジル人、ペルー人、その他南米日系人
- 調査方法 面接法
- 調査場所 浜松駅北口広場
イトーヨーカ堂前
ジャ・ブラ（通信業代理店）
セルビットゥ（ブラジル日用雑貨店）
- サンプル数 210
- 調査日 1996 年 6 月 1 日（土）、2 日（日）
- 調査項目 基本属性（10 項目）
日本での仕事（8 項目）
日本での生活（17 項目）
将来の生活（2 項目）
子どもの教育（5 項目） 合計 42 項目

『外国人の生活実態意識調査』

- 調査対象 市内に在住する 18 歳以上のブラジル人、ペルー人、その他南米日系人
- 調査方法 調査票はポルトガル語、スペイン語で作成し、1999 年 7 月～10 月にかけて配布回収。
調査票配布計 1,537
未到達 86
回収計 515
 - ・市の外国人登録から無作為抽出し、郵送・回収方式 123（回収率 13.5%）
 - ・小中学生の保護者への配布・回収方式 308（回収率 68.0%）
 - ・面接調査方式 84（回収率 100%）
- 調査項目 基本属性（8 項目）
仕事（7 項目）
住居（4 項目）
保健・医療（8 項目）
生活・意識（15 項目）
行政サービス（9 項目）
日本語の学習（7 項目）
子どもの教育（6 項目）
将来設計（2 項目） 合計 66 項目

浜松市のブラジル市民の生活・就労実態調査

編集・発行：浜松市国際課

〒430-0862 浜松市元城町 103-2

TEL. 053-457-2359 FAX. 053-457-2362

発行日： 2003年3月